

災害支援の網の目からこぼれ落ちる障害者

熊本学園大学社会福祉学部教授
被災地障害者センターくまもと事務局長
東 俊裕

- 1、熊本地震 前震 2016（平成28）年4月14日 震度7
本震 2016（平成28）年4月16日 震度7
- 2、被災地障害者センターくまもと・JDF熊本支援センター
立ち上げは4月20日、実働は5月から
- 3、災害時における障害者と社会資源との関わり（福祉が助けてくれるのか）
 - 1）入所、入院している障害者
 - 2）通所、通院している障害者
 - 3）在宅で居宅介護などの在宅福祉サービスを受けている障害者
 - 4）在宅でなんら障害福祉サービスを受けていない障害者
 - 5）障害者団体などの会員登録している障害者
- 4、障害者の一般避難所の利用可能性
 - 1）一般避難所には、緊急物資・専門家を含む人材・災害関連の情報が集中
 - 2）復興への道のりの起点
 - 3）しかし、障害者は多くの場合一般避難所を利用できず、結果的に排除される
- 5、2次的避難所としての福祉避難所
 - 1）被災障害者の数と入所施設の受け入れ能力の限界
 - 2）福祉避難所への移動の困難性
 - 3）一時避難所として機能することは困難
- 6、避難所に避難できない障害者はどこへ行ったのか
崩れかけた家の中とか車中泊とか親戚など
- 7、避難所に姿を見せず、どこにいるのかわからない障害者に対する支援情報の提供
支援の情報をSOSチラシで伝える
- 8、行政が設定した安否確認のスキームの限界と熊本市によるSOSチラシの郵送
- 9、障害者からのSOSの内容と求められる支援の質と量
 - 1）緊急時から復興に至る各段階でニーズも変化
 - 2）2大ニーズ（福祉サービスに対するニーズと生活環境再建に向けたニーズ）
- 10、見えてくる課題
 - 1）避難所における合理的配慮の提供（人的、物的配慮）
 - 2）仮設住宅等の合理的配慮の提供（バリアフリー化、ユニバーサル化）
 - 3）定型的福祉サービスではまかなえない生活環境再建に向けたニーズに対する行政の対応責任
 - 4）日頃の福祉サービスの貧しさの顕在化と震災後の継続的地域生活支援